

皇 學 館

第31号

学園報

発行・編集
学校法人皇學館(総務課) TEL0596・22・6308

大 学
法人本部・大学院・専攻科・文学部・教育学部・
現代日本社会学部・社会福祉学部・大学院
〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704番地
TEL0596・22・0201(代) FAX0596・27・1704

高等学校・中学校 三重県伊勢市桶部町138
【高校】〒516-8577 TEL0596・22・0205(代)
【中学】〒516-8588 TEL0596・23・1398(代)

●今号の注目記事

- 1 面
669名が巣立つ
平成22年度 学位記・修了証書授与式
(第46回 卒業式)
- 2 面
中国人留学生ら、春節の集い
- 3 面
職場体験付講座 第3回「京都の老舗」
- 4・5 面 学生責任編集ページ
文学部教育学科・卒業記念ミュージカル
「西遊記～仲間がおしえてくれたもの～」上演
- 6 面 高校・中学
卒業式を挙行
- 7 面
英国・ケント大学出張報告
- 8 面
女子ハンドボール部
東海地区 1 部リーグに昇格

●連載

- 2 面
皇學館人物列伝⑫ 澤瀉久孝
- 3 面
リレーエッセイ 私の学生時代
川村 一代(コミュニケーション学科准教授)
- 7 面
先輩、お元気ですか
磯上知里氏(国文学科第36期・平成13年卒)



上／晴れ着に身を包んだ卒業生たち。
下／内宮・外宮に参拝してから式に臨んだ。



柔らかな陽光のなかにも冷たさが残る三月十八日、平成二十二年学位記・修了証書授与式が挙行された。当日の早朝、卒業生らは、本学伝統の卒業式の慣例によって、

式の前に犠牲者へ黙とう

三月十八日、伊勢学舎記念講堂において、平成二十二年学位記・修了証書授与式(第四十六回卒業式)が執り行われた。華やかな袴姿、凛々しいスーツ姿の学生たちは、それぞれの希望を胸に学び舎を後にした。

未来の日本を担う六六九名が巣立つ

平成二十二年学位記・修了証書授与式 (第四十六回 卒業式)

参拝がゆるされ、学生たちは、感慨深い面持ちで参拝していた。

式は予定通り十一時三十分から行われたが、開始に先立ち、三月十一日に起こった東日本大震災で奪われた多くの命に対して黙とうを捧げた。

式のなかで伴五十嗣郎学長により令旨が奉読されると、卒業生の多くは母校での教養をかみしめて一心に拝聴し、社会へ挑む気持ちを新たにしていた。続く学位記・修了証書授与では、各学科および各課程(大学院等)を

代表して、総代十二名が壇上にあがり、証書を受け取った。

伴学長は式辞にて、本学の特色―入學式や卒業式、さらには毎月の恒例行事として神宮に参拝すること、また神道を中核とする「建学の精神」を一貫して標榜し、実践していること、を改めて伝えた。そのうえで贈る言葉として、神道が教える徳目の中でもっとも重要な「正直」の大切さについて言及、「少しくらい不器用でも『正直』を心がけることで、周囲の人々か

ら信用と信頼と集められる」と激励した。また佐古一冽理事長は、司馬遼太郎の文章を引用し、社会に生きていくためには「いたわり」「他人のいたみを感じる」「やさしさ」の三つが必要であると説いて、卒業生にエールを送った。

来賓の鷹司尚武神宮大宮司は「現代社会は多くの問題を抱え、厳しい状況にある。そんな時こそ皇学を修めたみなさんの使命はますます重要となる」と、卒業生たちへの期待を述べた。

「皆揃って卒業、嬉しい」

会社を六十歳で定年後、社会福祉学部に入學した北尾朋彦さんは「皇名祭で若い学生とともにお茶席を催したことが印象に残っている」と充実した学生生活を振り返った。今後は地域のボランティアとして活動し、地域社会に貢献していきたいと意欲的だ。また答辞を担当した文学部国文学科の田口若菜さんは「先

に大きな震災があったが、皆が揃って卒業式を迎えられることが嬉しい」と語った。

もともと漢字や文法が好きで、国語学に興味を持ち本学に入學した田口さんは、四月からは津市内の図書館に勤務する。皇學館で学んだ神道精神をベースに現代社会

の様々な問題や変化に対応していきたい」と抱負を述べた。



田口若菜さん(左)と北尾朋彦さん。

東日本大震災

卒業生らが二十万三千九百九十九円を寄託

在学生らはボランティアグループを結成

東日本大震災の被災地支援にと、卒業式が行われた記念講堂と謝恩会場の体育館には募金箱が設置された。義援金として集まった二十万三千九百九十九円は、三月二十四日に中日新聞社会事業団へ寄託された。

三月末には、在学生・教職員の有も実施していく予定だ。

この度の東日本大震災で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。本学は復興に向けた、でき得る限りの支援を実施してまいります。

学校法人 皇 學 館

倉田山 春秋

桜が満開となった。今年の春は開花が待ち望まれた年はない。花冷えというより冬日が続いた3月。11日に東日本を大震災が襲った。津波の襲来による、未だかつて見たこともない光景に眼を覆わずにはられない。見えない脅威、放射能に怯える日々も続く。被災地のことを思うと夜も眠れない▼学内には、電力使用の過剰を知らせるシステムがある。寒暑の厳しい日には、警告音が度々鳴る。日常生活のなかで自戒に努めることが、僅かながらでも復興支援に繋がる▼10年ほど前にタイ東北部のイロノイ村に滞在した。住民の明るく潑刺とした姿、その清々しい笑顔に衝撃を受けた。村に電気はない。村人一体となった自給自足の暮らし。暑さを凌ぐための高床式家屋。明るくなれば働き、日が沈めば休む。そこには私たち日本人が失った清貧の生活があった▼英国の詩人ワーズワースは「低く暮らし、高く思ふ」の言葉を遺した。英国には、今なお「古いものは美しい」といった意識が根付く。これらのエネルギー確保をどうするか。大量生産、消費社会の限界が見える今、私たちはあらゆる面で転換の時期にある。

中国人留学生ら春節の集い

広がる日中交流の輪

二月十一日、伊勢市朝熊町のふれあい会館で中国の旧正月「春節」を祝う交流会が催された。この会には、日中の相互理解を深めようと難倉誠堂さん、桂子さん夫妻が企画したもの。開催にあたっては本学大学院の中国人留学生、張文宏さん、李燕さんが協力し、総勢四十人が集う賑やかな催しとなった。

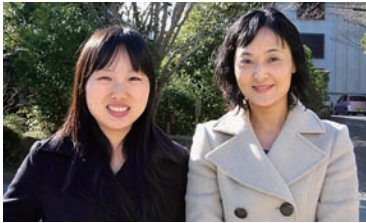


ふるまわれた水餃子をおいしそうに食す招待客たち。張さんと李さんはこの水餃子作りのため、朝9時ごろから準備に追われたそうだ。

中国で最も伝統的な祭「春節」

旧暦の一月一日にあたる「春節」は、中国でも伝統的で重要とされる祝祭日である。大晦日（除夕）には親戚や家族が集まり、町では爆竹が派手に鳴らされるなど新年の到来を盛大に祝う。月の満ち欠けを基にしている旧暦では、元旦は「冬至の次に来る新月の日」。

平成二十三年は二月三日



李燕さん(左)と張文宏さん。

水餃子をつくるまじ

この春節祭を日中友好の場にしようと、二月十一日、伊勢市朝熊町のふれあい会館で「第一回伊勢・春節を祝う会」が開催された。企画したのは同町にある珪田院の住職、難倉誠堂さん、桂子さん夫妻。夫妻は中国残留孤児の支援を続けており、草の根交流の輪を広げたいと同市在住の残留孤児とその家族をはじめ、市内在住の中国人、地元住民など約四十名を招いた。

本学の中国人留学生・張文宏さんは語学教室を通じて知り合った桂子さんからこの計画を聞き、協力することを快諾。同じく留学生の李燕さんや参加者と一緒に春節祭に欠かせない料理「水餃子」を作りふるまった。当日は寒波に見舞われたが、庭に降り積もる雪を眺めつつの餃子は、味わいも格別だったようだ。

「水餃子の包み方や具の中身、料理の種類など地域によって異なる春節の風習について話したり、今どきの日本事情を教えてもらったり、餃子を作りながら日中の交流を深めることができた」と張さん。李さんも「地元の方や子どもたちが中国の文化に興味を持って」と語った。

事後に伊勢学舎への移転が完了した。当日は、最後まで業務に就いた教職員・学生らが名張学舎の名残を惜しんだ。

名張学舎からの移転が完了

平成二十三年度より社会福祉学部は伊勢学舎へ



上／伊勢学舎記念講堂前での荷下ろし作業。(2月26日)
下／名張学舎図書館前での椅子の撤出作業。(2月25日)



学舎統合に伴う名張学舎の移転・引越し作業が二月八日より実施された。特に同十九・二十六日は、積荷を載せた大型十トトラックが伊勢学舎に集結し、職員総出で夜間まで荷下ろしにあたった。移転作業は翌月も続き、三月三十一日に最終の荷物が積み込まれ、無事完了した。

移転作業の陣頭指揮を執った水本昌克総務課長と橋本久学舎統合特命課長は、「事故やトラブルがなく、作業が完了したことに安堵している。伊勢学舎に学びの場を移す社会福祉学部生が快適に学生生活を送れることを第一に願っている」と語った。

れあい会館で「第一回伊勢・春節を祝う会」が開催された。企画したのは同町にある珪田院の住職、難倉誠堂さん、桂子さん夫妻。夫妻は中国残留孤児の支援を続けており、草の根交流の輪を広げたいと同市在住の残留孤児とその家族をはじめ、市内在住の中国人、地元住民など約四十名を招いた。

若い発想を、未来の伊勢に反映

伊勢市と本学との環境ミーティング開催

二月二十八日、記念館にて伊勢市職員と本学との「環境ミーティング」が開催された。参加したのは、環境課の職員六名のほか、本学中松豊教育学部教授とそのゼミの三・四年生九名だ。はじめに伊勢市から平成二十一年度の伊勢市環境報告書「そのおと」の内容を説明。その後のディスカッションでは、学生ならではの視点からさまざまな質問が飛び出した。例えば、ある学生は「教育実習の経験をもとに子どもたちの通学路に落ちているゴミや犬のフン



伊勢市からは、倉陵祭を「エコな学園祭」として、環境に取り組むコーナーなどを作ってはどうか、などの提案があった。

今後、このような交流会が四季折々にあわせて年四回ほど開かれる予定で、二人は「他の留学生にも呼びかけて、積極的に協力していきたい」と意欲を示していた。

参加した森下恵さん（同四年）は「分別の大切さなど、自分の生活をも一度見直したいと思った。教育実習に行った小学校では汚水対策として食器を不要なプリントで拭いてから洗う先生がいたので、自分が教師になっても、そういう意識をもって子供と接していきたい」と語った。

出前講座を考えていることを言及。環境学習を進め、地域ぐるみでモラル意識を高める重要性を再認識していた。

皇學館 人物列伝 12

澤瀉久孝

おもだか ひさたか

万葉集研究に心血を注ぎ 国文学科の基礎を築く



おもだか ひさたか ◆三重県生れ。京都帝国大学文学部国文学科卒業。第五高等学校教授を経て、大正十一年京都帝国大学助教授、昭和十一年同教授。昭和二十六年、京都大学教授を辞し、京都大学名誉教授となる。関西大学・ノートルダム清心女子大学でも教鞭を執る。皇學館大学再興時国文学科設置に尽力。主著「万葉集注釈」の完成に対し、昭和四十二年に朝日賞が贈られた。他に「万葉の作品と時代」「万葉古歌」「三三三など。哲学者澤瀉久敬は実弟。一八九〇―一九六八。

澤瀉久孝は、明治二十三年、現在の伊勢市宇治今在家町で生まれた。昭和を代表する万葉学者である。その研究姿勢は、歌一首一首の正しい解釈を目指すものであった。その研究の集大成が『万葉集注釈』全二十巻であった。巻第一（昭和三十三年）の「はしがき」に「僅か五句三十一音内外の作品の一語一句でも訓み方に異説のある事は重大事である。それをよけ加減にしておいて『鑑賞』『批評』などをやる事は不可解な事だ」と私は昔から思っていた」と述べている。つまり歌を生かすために訓詁の重要性を説くのである。

現在、万葉研究において高い水準を保つ学会に万葉学会がある。その発足は昭和二十六年七月に遡る。澤瀉の門下生を中心に結成され、その代表者に澤瀉が推されたのであった。同年十月、その学会誌「万葉」創刊号「編輯後記」を澤瀉は次のように結んでいる。「みづから語る為に万葉があるのではない。万葉を明らかにする為の我らなのである」と。

昭和四十一年、喜寿を迎えた記念論文集「澤瀉博士喜寿記念万葉学論叢」には、小島憲之・西宮一民・伊藤博・井手至をはじめ錚々たる門下生の顔触れが並ぶ。昭和四十三年十月十二日・十四日、万葉学会全国大会が静岡市で開催された。澤瀉の講演テーマは「注釈完成にあたって」であった。そして十月十四日、万葉旅行当日の朝二時過ぎに急逝。「万葉集注釈」巻第二十の出版を目前に控えてのことであった。「万葉集注釈」全二十巻の価値は今も揺るぎない。

澤瀉は皇學館大学再興にも尽力した。国文学科の生みの親ともいえる存在で、その基礎を築いた。国文学科研究室には今も遺影が掲げられている。

逝去後の昭和五十年、その蔵書が遺族により寄贈された。澤瀉久孝文庫である。平成九・十年にも追加寄贈がなされた。「万葉集注釈」の白筆原稿をはじめ、尼崎本万葉集断簡・元暦校本万葉集断簡等の一級の資料が含まれる。墓所は生誕地に程近い今北山墓地にある。

文学部国文学科教授 大島信生

大学を挙げて就職活動促進

職場体験付講座「京都の老舗」

第三回開催のご報告

去る二月十四日に「職場体験付講座」第三回「京都の老舗③」が実施された。これは、伝統産業や京都文化に興味のある学生を京都の代表的な老舗企業に案内して各企業のトップの方から講話を承り、参加学生の教養や見聞を広め、また就職への機縁をつくり、各自の就業意欲を高めることを通じて就職活動の支援を目指すものだ。

当日は、学生十一名(文学部七名、現代日本社会学部四名)(一年生八名、二年生二名、四年生一名)が参加。八時に宇治山田駅をバスにて出発した。車中でコーディネーターの岩崎正彌准教授(現代日本社会学部伝統継承文化創造コース)から「企業はどのような人材を採用したいか」をテーマに講話が行われた。

最初の訪問地として、京漆器(象彦さん(岡崎)へ。代表取締役社長の西村毅氏より漆器の製作過程や時絵の見どころなどについてご講話をいただいた。

次は、京扇子「宮脇賣扇庵」さん(六角富小路)へ。相談役の宮脇祥三氏より京扇子の歴史や特長についてご講話をいただき、店内に展示されている扇の数々について解説をいただいた。

午後は近年稀に見る大雪に見舞われたが、夕刻には無事に伊勢に帰還し、解散となった。



上/京漆器「象彦」さんを見学の様子。日本の伝統の心と技について学んだ。
下/京扇子「宮脇賣扇庵」さんを見学する一行。

ただ、とても幸せです」「日本の伝統文化、商業マナー、道徳など、様々なことが勉強になりました」「これからの自分の将来について参考となる話を伺えたと思う」など感動のレポートが寄せられました。

今後京都をはじめとして、大阪・名古屋・東京などの文化的な企業との交流を深めることにより、学生がますます社会に貢献できる機会を提供していきます。



京麩「半兵衛麩」さんの店で。麩が主役の様々な料理に舌鼓を打った。

現代日本社会学部・立志塾 第2回

「日本人としての家族・郷土・国家を考える」開催の報告

本学客員教授 田尾憲男氏講演会



上/午後からのディスカッションの様子。各自思い思いの意見を出し合った。
下/「夫婦別姓」や「外国人参政権」の話題では、積極的な意見交換がなされた。

二月十三日、午前十時から午後四時まで伊勢学舎五三六教室で第三回・皇學館大学特別講座(「立志塾」第二回)が開催された。講師は本学客員教授(鉄道情報システム常勤監査役、憲法・皇室法研究家)の田尾憲男先生。演題は「日本人としての家族・郷土・国家を考える」だった。

受講生は文学部神道学科三名(二年生一名、一年生一名、科目履修生一名)、現代日本社会学部九名(すべて一年生)の計十二名。午前中は、「国家とは何か」「日本とは何か」を問うなかで、皇室を中心とした日本の国柄や、領土(北方領土・竹島・尖閣諸島など)を守ることの大切さ等についてお話しいただいた。午後は、さらに「夫婦別姓」や「外国人参政権」の問題等、内政における危機についてお話しいただいた。

休憩の後には参加者でテーブルを囲み、相互に意見を交わしながら、これからの日本を護るための

方策、また本学で学ぶ学生が果たすべき役割について、さらに理解を深めた。

が、このことが家庭崩壊の一因になるとは思っていない。また、それを聞いて私も反対だと思いません。(中略)もっと色々なことを知りたいと思つたし、多くの人々に知ってほしいと思ひました。このように感じることで、今日参加してよかったと思います。ありがたうございまして」などの報告文が寄せられた。

(現代日本社会学部 准教授 岩崎正彌)

私の学生時代

アメリカ留学

文学部コミュニケーション学科 准教授

川村 一代

ミシガン州立大学大学院修了



「たい！」という強い思いに動かされ、猛勉強を始めました。選考試験まで一カ月間でしたが、毎日十時間以上は英語の勉強をしました。結果は合格でした。

この試験勉強を通して、「一生懸命努力すれば、神様が味方してくれる」と感じました。選考試験のリスニングの問題に、前日勉強したのと同じ問題が出たのです。あとで聞いた話ですが、わたしと二位だった人の点数差はわずかだったそう、もしそのリスニングの問題が違つた問題だったら、試験に受かっていなかったかもしれません。きつと、「アメリカに行きたい！」と必死に英語を勉強していたわたしを神様は見えてくれたのだでしょう。

今あの頃を振り返ると、なぜアメリカがそんなに良かったのか、なぜがむしろに英語を勉強できたのか不思議です。おそらく「若さ」というパワーだったのだでしょう。よくわからないけど、何かにばかみたいに夢中になれる、それが「若さ」だと思います。このあとわたしのアメリカ熱はしばらく続き、その結果、英語で食べていけるようになったのです。

——深草先生は第1回から欠かさず観てこられたそうですが、その変遷について教えてください。

深草先生 ●昔は卒論を書いてから練習していたので準備期間は1カ月くらいでしたよ。上演も1日だけでした。何年前からでしょう、今のように学内公演や招待公演をするようになったのは。前年度よりいいものを、と張り切るうちに上演時間が長くなり、内容も濃くなって観客も増えていきましたね。



——昨年と比べ、今年のミュージカルはいかがですか。

神田 ●本公演の前に改めて昨年のDVDを見て、完成度の高さに驚きました。あと1カ月でどうやったら先輩たちに追いつけるんだろう、僕たちの強みを生かすにはどんな工夫ができるんだろうと最後の最後まで考えさせられました。



松平 ●先生方には例年と比べ音楽やダンスパフォーマンスが多くなったと言っていました。男の子が主役を演じるのもあまりなかったのでは？

深草先生 ●そうだね。「西遊記」というアジア的な演目が選ばれたのも最近の傾向からいうと珍しいことだし。それに、文学部教育学科としては最後の公演になるから、今までにないプレッシャーがあったと思いますよ。

——準備を進める中で工夫した点をお聞かせください。

田中(章) ●まず、「西遊記」を発案したのは自分が幼い時に読んで好きだったということもありますが、人間ではなく、妖怪が主人公という設定が子どもたちに受けるといったんです。工夫した点は、〈おかまキャラ〉など子どもたちが笑う要素を取り入れたことですね。



田中(美) ●音楽班の班長を務めたのですが、一番多かったのが今までに

今だから話せる?! ミュージカル裏話

133名の有志が9つの班に分かれ、1年という歳月をかけて創り上げたミュージカル。準備の間、考え方や価値観の違いから意見が衝突したり、思い悩んだ時もあったようだ。そんな悲喜こもごもの裏話を学生と深草正博教授が熱く語った。

トークメンバー

深草 正博	教育学部長(教授)
田中 章太郎さん	実行委員長・脚本班
田中 美帆さん	音楽班
松平 春奈さん	実行委員・会場班
神田 謙さん	パフォーマンス班



上に〈ミュージカルらしさを出したい〉という声でした。それに応えたくて脚本班や顧問の錦先生と相談しながら音楽を取り入れる場面を決めていったのですが、実際に舞台に当てはめると余分だったりして直前まで悩みました。

松平 ●立体的なディスプレイにしたり、明るい色を使ったり、子どもたちが喜ぶ会場づくりに苦心しました。もともと、会場班を希望したのは授業で実際に学んだことを生かせると思ったから。その意味で、いろんなことを実践できてよかったです。

神田 ●孫悟空を演じるにあたっては、自分自身が楽しむことを心がけました。僕が楽しい気分で演技できたら、観てくれる子たちにもきっと伝わるんじゃないかと。

深草先生 ●班のメンバーを見ていると、適材適所だなんて思いましたね。もともとの特徴・性質を生かすだけでなく、新しい才能や資質を発見することもあるんじゃないかな。

——苦勞した点は。

田中(章) ●実行委員長としては班同士のすり合わせが大変でした。それ

ぞれの班に独自のこだわりがありました。できるだけ小まめにいろんな班に顔を出して、橋渡し役を担いました。

田中(美) ●苦勞の連続でした(笑)。有志とは何か、という定義からして違ったので……。一時、班から離れた人もいるほどです。意見や方向性を調整するために何度かミーティングを開きましたが、発言が苦手な人もいます。だから、個々に話し掛けたりノートを作って書き込んでもらうようにしたり。一番効き目があったのが、指揮者担当がみんなの気持ちを知りたいって涙ながらに訴えたこと。その後は思ったことを言い合える班になったと思います。

松平 ●会場班は地味な作業の連続なので、モチベーションの維持が課題でした。それに、大看板作りといった力仕事におみやげのカプセルやアイテムを作る緻密な作業など、あらゆることを同時進行でやらなくてはいけないのが大変でした。



神田 ●主役ということもあってか、周りの人が指導してくれる機会が少

なかったんです。自分で見て聞いて考えなければいけなかった。それが、役作りにおいて苦勞した部分ですね。

——ミュージカルを創り上げていく中で何を学び、得ましたか。

田中(章) ●一言の重みについて考えさせられました。133名という大所帯でひとり一人としっかり向き合う時間が取れない中、一言「ありがとう」と声を掛けるだけで気持ちは伝わる。言うか言わないかの違いを痛感しましたね。教師になっても、このことは忘れないと思います。

田中(美) ●サブテーマとして子どもたちに伝えたかった〈協力することの大切さ〉を、逆に教えてもらいました。



松平 ●実行委員としては大勢の前でわかりやすくポイントを押さえて話すコツや度胸が身につきました。会場班としては低学年の子どもたちとの触れ合い方が学べる、絶好の機会になりました。

神田 ●役者を担当して、観られる側の意識が大切だと実感しました。スイミングスクールでコーチもしているのですが、自信を持って指導しないと子どもたちの信頼は得られません。役者も同じで、自信、自覚を持つて孫悟空に成りきらないと子どもたちに見透かされてしまいますから。

——最後に、ミュージカルの今後について抱負をお聞かせください。

深草先生 ●ミュージカルは学生にとって4年間の総決算。〈ミニ社会〉ともいえる中で、ひとり一人が自分の役割をまっとうする大切さに気づいたと思います。そのことを社会に出ても忘れないでいてほしいですね。

それから、私の将来の夢は特急が停まる近鉄沿線の町で出張公演をすること。より多くの子どもたちに観てもらいたいし、本学の教育力の高さを実証、発信できる場にもなる。来年からは教育学部になりますが、形は変わってもやめることは決してありません。本学の良き伝統として、永遠に残していきたいと思います。

藤井竜二

副実行委員長、音響照明班

音響照明班の活動ではイメージを統一するのが、副委員長としては実行委員会と班とのズレなどをどう解決していけるかを考えるのが大変でした。僕にとってこの4年間に会った友達は本当に宝物。みんなのおかげでこの4年間は最高の時間になりました。ほんまにありがとう。



松村泰希

悪役 ジャワ役

積み重ねてきた練習や仲間との頑張りによって不安は自信に変わり、一切の迷いを消した演技ができるようになりました。1人ではできないことも仲間がいればでき、支え合い、協力することで人の力は何倍にもなることを実感しました。社会へ出て仲間を大事にしていきたいと思っています。



北 菜摘

道具班

私たち道具班の活動は表に出るものではありません。ですが、自分たちの作ったものが舞台上で使われ、それによって役者が引き立てられたら本望だと思います。ミュージカルを通してみんなと関わりを深め、一緒に最高のミュージカルを作り上げることができて本当に良かったです。卒業しても一生「仲間」ですよ!



岡本和也

会場班 班長

カプセル磨きや看板作り、当日の手遊び等、会場班は人数が少なく、やるべきことがたくさんありました。準備中はとても苦労しましたが、子どもたちの笑顔やお客さんの喜んだ顔を見たらこのメンバーとここまでやってきて本当に良かったと思います。



伊藤怜奈

三蔵法師役、パフォーマンス班

三蔵法師を演じるなかで一番苦勞した点は歌う場面です。歌い出しが上手くいかなかったり、歌詞を間違えたり、リズムが合わなかったりと、本番ギリギリまで不安でいっぱいでした。そんな中、みんなの励ましや応援の言葉が私の一番の支えで、本番は自信をもって歌うことができました。本当にありがとう!!



寺村奈津

衣装班 班長

イメージしたものを、形にすることが一番難しかったです。初めは何回も作り直したり、本を見ながら苦戦したけど、最後はスムーズに作れるようになりました。ミュージカルの中で「協力することの大切さ」を感じとれるシーンがあります。私もミュージカル活動を通して、そのことを身をもって体感しました。



学 生 責 任 編 集 ペ ー ジ

学生記者募集!.....興味のある人は総務課まで!

K O D A I S M

文学部教育学科・卒業記念ミュージカル

心ひとつに、 「西遊記」を上演



舞台が終わり、割れんばかりの拍手を受ける有志たち。

3月5・6日の両日、伊勢学舎記念講堂において卒業記念ミュージカル「西遊記 ～仲間がおしえてくれたもの～」が開催された。同ミュージカルは文学部教育学科の4年生有志が毎年上演する一大イベントで、今年で通算24回目。文学部としては最後の公演ということもあり、一層熱のこもった舞台となった。

生演奏による本格ミュージカル

文学部教育学科の4年生有志が1年かけて取り組む卒業記念ミュージカル。今年は133人が参加し、学びの集大成といえる舞台を披露した。

演目の「西遊記」は、強くなることにしか興味がなく、自分のことばかり考えていたサル(孫悟空)の王・孫悟空が、三蔵法師や猪八戒、沙悟浄とともに世界を平和にする旅の中でさまざまな人々と出会い、成長していく物語。これまで「青い鳥」や「ブレーメンの音楽隊」など西洋の児童文学を取り上げることが多かった中で異色の作品だ。

また、「ミュージカル」であることにこだわりたいと、吹奏楽の生演奏と合唱班の歌を中心に約20の演奏曲

を用意。子どもたちも一緒に歌えるよう、「ミッキーマウスマーチ」や「アイアイ」などよく知られた原曲を使い、オリジナルの歌詞を付ける工夫を施した。舞台下から聞こえる迫力ある生演奏やプロ並みに朗々と歌い上げる役者の歌唱力に魅了されたのか、会場からは曲が終わるごとに拍手が送られ、熱気と感動に包まれた舞台となった。

“協力”する大切さを伝えたい

歌唱力やダンスパフォーマンスのレベルの高さもさることながら、観客参加型の演出が光った今回の舞台。たとえば、孫悟空と猪八戒が沙悟浄に出会うシーンでは、会場に向かって沙悟浄がどこにいるのか尋ねる。すると、池に隠れている沙悟浄



左・上／歌やダンスが満載の舞台。
下／子どもたちが飽きることはないよう、会場で手遊びを教える会場班のメンバー。



に気づいた子どもたちが、「後ろにいる!」「あそこや!」などと指を差しながら口々に叫び、会場を沸かした。「モンキーマジック」という掛け声とともに敵と戦う場面では、孫悟空と一緒に声を発してくれるよう呼びかけた。恥ずかしさもあってか最初小さかった声は次第に大きくなり、割れんばかりに響くとついに大ボスは倒れクライマックスへ。子どもたちは仲間を信じ、協力することの大切

さについて身をもって知るとともに、一体感も味わったようだ。

立ち見客が出るほど

会場は立ち見客が出るほどの盛況ぶりで、2日間でのべ2千人が舞台を楽しんだ。公演後、講堂前の広場では孫悟空や三蔵法師、敵役たちと一緒に記念撮影をする親子や、図書館前に設置された顔出しパネルに顔をはめ喜ぶ子どもたちの姿が見られた。5歳の男の子を連れた伊勢市内の主婦は、「歌やびったり息の合ったダンスに圧倒された。子どもも最後まで夢中になって観ていた」と感想を話していた。「おかまのキャラクターが面白かった」とは小学3年生の女の子たち。毎年観に来るというおばあさんは「ところどころで〈五十鈴川〉など伊勢の地名や場所が出てきたので、話がより身近に感じられた」と語っていた。



全員で記念撮影。達成感と自信にあふれた表情が印象的だ。



公演後、講堂の階段で観客を見送る役者たち。一緒に記念撮影する家族の姿も多く見られた。



おみやげのカプセルを手渡すスタッフたち。4000個作ったそう。

ミュージカルを終えて

松田典紀
教育学科教授

劇が終わって緞帳が下りた瞬間、舞台の中から幕を通しておびただしい光線が発射されたように感じた。昔観た、モスラが卵の殻を破って生まれる光のように…。それはミュージカルそのもののエネルギー。すばらしい歌声、舞踊、演劇が三つ巴となった西遊記の世界。信頼や思いやり、協力といった、何ものにも代えがたい人と人との繋がりが一大叙事詩のように緩急織り交ぜ、潮のように迫ってくる。ラストシーンの科白のように、これからは今までのプロセスで培ったすばらしい人と人との関係を広めていってください。勢いよく卵を割って、平和を守る怪獣モスラのように…。世界へ、実社会へ、羽ばたいていってください。



錦かよ子
教育学科教授

4教ミュージカルに初めて関わらせていただき、130余名の、学生の力の素晴らしさを実感しています。「良いミュージカルを作ろう」という一つの目標に向かって、ひとり一人がその持ち味を精一杯発揮する姿に、ただただ感心するばかりです。ミュージカルは歌って踊って楽しんでいるだけにとられがちですが、決してそうではありません。いろいろな意見が衝突し、その解決策を探っていく過程にこそ教育的意義があります。また個人の隠れた能力の再認識や、自己実現、達成感なども体験できるのです。そして何よりも「感動」。1年間の努力の成果である感動の素晴らしさを、今度は教員として、子どもたちに伝えていただきたいと思います。



天花寺由紀子
教育学科研究室

舞台いっぱいお客席にまで広がって踊る、大人数のダンスシーンが圧巻でした。あそまでの迫力に仕上げるには、相当練習されたと思います。先日、5歳と8歳の女の子から手紙をもらいました。手紙には、「ミュージカルすごかったです。さいごのところでかんどうしてなみだぐでできました」と書かれていました。皆さんが伝えたかった「仲間の大切さ」や「世の中を平和にするにはまず周りの人たちと仲良くすることから」というメッセージは、きっと子どもたちの心に届いていると思います。これだけの素晴らしい舞台を作り上げた経験は、それぞれの自信となり社会に出てからの糧となると思います。皆さんのご活躍を、心よりお祈りしています。



「建国記念の日」の講演 人はなぜ学ぶのか◆バイマーンジン氏

「建国記念の日」に先立ち二月十日、中・高生を対象に記念講演会が催された。講師にはチベット出身で大阪在住のバイマーンジンさんをお迎えし、「日本とチベットに暮らして思うこと〜人はなぜ学ぶのか〜」の演題でお話いただいた。

書かれた感想文を見ると、「自分たちが当たり前のように受けている教育の機会や、身の回りの便利な物がいかに恵まれたもので、享受している環境は実は親・先人たちの努力がもたらしてくれたものであ

四〇六名が新たな旅立ち

第四十六回 皇學館高校卒業式

三月一日、大学記念講堂において第四十六期生・四〇六名の卒業式が催された。雨に阻まれ今年は神宮参拝がやむなく中止に至ったものの、十時三十分、式は厳粛な雰囲気



熱心に語りかけるバイマーンジンさん。



部活動の後輩から花束を渡され、笑顔を見せる卒業生。

三月一日、大学記念講堂において第四十六期生・四〇六名の卒業式が催された。雨に阻まれ今年は神宮参拝がやむなく中止に至ったものの、十時三十分、式は厳粛な雰囲気

- ◆ 皇學館理事長賞 ◆ 神宮大宮司賞 ◆ 河俣 真由 ◆ 皇學館理事長賞 ◆ 三重県知事賞 ◆ 奥田 千穂 ◆ 日本私立中学高等学校連合会会長賞 ◆ 春原 若菜 ◆ 伊勢商工会議所会頭賞 ◆ 安西 悠 ◆ 三力年皆勤賞(74名)

皇高NEWS

皇中NEWS



3年生から在校生へのメッセージ。

平成22年度 三年生を送る会



ビンゴ1位!! 景品受け取り。

感動に包まれた卒業式

第三十回 皇學館中学校卒業式



卒業生答辞

三月十九日に平成二十二年

をそれぞれ合唱し、卒業生へのメッセージを伝えた。三年生はマジック披露と在校生へのメッセージ、「未来予想図II」を見事に歌い上げ、各学年の心温まる言葉にみんなの感情が一気に高まった。その後、サフライズで三年担任団から「KOGAKKAN RADIO」が披露された。ラジオDJとして田中秀幸先生が安井浩子先生、岩崎眞理先生のメッセージを読むと、卒業生たちから涙がこぼれた。

同窓会会員

愛知県
一万五千元(五千円増額)
北山 均様

後援会賛助会員

三重県
一万円
中谷 紀生様

皇學館高等学校創立五十周年・皇學館中学校創立三十五周年記念事業 寄付者芳名

皇學館高等学校創立50周年・皇學館中学校創立35周年記念事業寄付金進捗状況

平成23年 2 月28日現在

区分	申込件数	申込金額(円)	納入金額(円)
宗教界	3	450,000	450,000
企業	42	4,240,000	4,180,000
一般 (旧教職員・篤志家等)	15	435,000	435,000
同窓会会員	152	6,876,000	6,876,000
後援会賛助会員	65	1,105,000	1,105,000
本法人関係	125	3,685,000	3,635,000
合計	402	16,791,000	16,681,000

平成22年度 新刊本



宇佐宮記の研究

伊藤 勇人 著

A 5 版 定価 6,800円

本書は、第一部宇佐宮記の研究と第二部宇佐宮記の周縁の二部構成である。宇佐宮研究の史資料は膨大に存在するが、宇佐宮・弥勤寺の全体像把握に必要不可欠な編纂物は二つある。その一つが御託宣集であり、今一つは宇佐宮記である。前者に関する研究は数多あるも、後者については皆無に等しい。いつ誰が何のために編纂したものか全く解明されておらず、この課題に答えたのが本書である。

明治期教科書政策史研究

掛本 勲夫 著

A 5 版 定価3,150円

明治期文部省の教科書政策について、教科書国費編纂・出版・供給の計画・実施過程と教科書検定制形成過程に焦点をあてて、新発掘史料を使って考察したもの。



石灰壇「毎朝御拝」の史的 research

石野 浩司 著

A 5 版 定価 3,800円

石灰壇において天皇おんみずから毎朝に伊勢の神宮、ならびに内侍所を御遙拝あそばされる「毎朝御拝」。単著としての研究書は類例がない。清涼殿の東南隅に石灰壇はある。「石灰壇とは何か」この素朴な疑問に著者は真正面から切り込み、その千年の来歴を通史的に解説してゆく。あわせて内侍所祭祀の展開などにもふれつつ、その変遷は具体的に図解されている。700頁をこえる本書は、大学出版部の助成をえて破格の安価である。ぜひ手にとって通覧して頂きたい。



文明と経済の相生

宮川 泰夫 著

A 5 版 定価 2,835円

『文明と経済の相生』が、今日ほど地球の環境と人類の厚生にとって重要な研究課題になったことはない。著者の独創的理論と独自の多面的な実証は、評者も招かれたソルボンヌ大学をはじめとしたパリでの一連の会議で、時を得た書として高い評価を得た。

評：二神真美
名古屋商科大学経済学部教授 博士(比較社会文化)



韓天寿が愛した石刻資料

上小倉 一志 著

B 6 版 定価 500円

本書は松坂(松阪)出身の韓天寿が身を寄せていた岡寺山継松寺ゆかりの文人墨客を紹介すると共に、韓天寿自身が生涯をかけて取り組んだ集帖制作の様子を継松寺が蔵する『岡寺版集帖三十七帖』を中心に報告したものである。



書籍注文方法

右記へ、お電話またはFAXにてご連絡下さい。

皇學館大学 出版部

TEL&FAX 0596-22-6320

- 書名・冊数・住所・氏名・電話番号をお知らせ下さい。
- お支払いは郵便振込にてお願いします。

英語圏との国際交流 英国の大学を視察

ケント大学出張報告

社会福祉学部社会福祉学科 教授 池田 久代
(新年度より文学部コミュニケーション学科教授・国際交流委員)



国際交流委員会の命をうけて、三月十九日より二十四日まで、半田美永学生部長（新年度より文学部長）、玉田功総務部主任とともに、英国のケント大学を訪問した。中国との交流事業が軌道にのった現在、西欧圏の大学との国際交流を活性化し、英国の大学での夏期英語研修の継続的実施や、その他の学術交流を促進するための調査・交渉のための渡英であった。

早春の英国は花の季節が到来していた。イギリスの春の美しさは英文学を学ぶものにはとりわけ魅力的に思える」とは、

西欧圏との学術交流を促進

ある知り合いの英文学者の言であるが、アーモンド、桜、モクレン、ライ

ラックの花木が咲き、公園や大木の下草には、香り高い春の魁、黄水仙、桜草、スズラン、クロッカスなどが今を盛りと咲

学生数約二万九千人を誇る教育先進校

ロンドンから車でおよそ一時間半、電車を使う

と約一時間で、英国南東部のケント州カンタベリ



英国国教会の総本山・カンタベリー大聖堂（世界遺産）。

ーに到着する。その先のドーバーまで赴くと、晴れた日には海峡の向こうにフランス本土が見える。英国における「ヨーロッパ大学」と自称する国立ケント大学（一九六

五年設立）は、古代より英国の海の玄関口であったこの地方にふさわしいロケーションを誇っている。ヨーロッパの首都と呼ばれるベルギーのブリュッセルと花の都パリ（ちよつと古いかな？）にキヤンパス（ともに大学院）を持ち、学生の約二割が諸外国からの留学生で占められている。人文、科学、社会科学の三部門、十八学部と三つの教育センターを持つ、学生総数約一万九千人の教育先進大学である。RAE（教育業績評価）は英国一五九校中二十四位で、雇用主の求める学生能力向上への取り組みも盛んである。ケント州内にはメイ

ンキャンパスのカンタベリーに加えて、テムス川下流のメッドウェイとトンブリッジにもキャンパスがあり、特にメッドウェイ・キャンパスは、古い港灣造船都市に残る建

築物を近代的に再構築したものであり（メッドウェイ・プロジェクト）、他大学との連携による地域再生型の大学として脚光を浴びている。

さて、今回訪問したのは、カンタベリー大聖堂を見下ろす三百エーカーの丘陵公園に広がるメイ

ンキャンパスで、さわやかな風の丘からの眺望は絶品である。ケント大学所属のCEWL（英語・世界言語センター）のセンター長、アントニー・マニング所長と関係職員、そしてダーウィン・カレッジの学寮長であるナンシー・ガフィールド教授を訪ね、このセンターやカレッジ内部の諸施設、一般・留学生用の寮

その他、キャンパスに点在する劇場、パブ、カフェ、図書館などを見学した（この大学は、演劇や芸術関係の教育活動が盛んである）。初夏を思わせる陽光のまぶしいキャンパスでは、学生たちが思い思いに太陽の季節を楽しんでいた。開放的な雰囲気である。古代の遺跡（世界遺産の聖アウ

創立一二〇周年・再興五十周年記念事業 寄付者芳名

創立一二〇周年・再興五十周年記念事業募金につきまして、学内外の方々から変わらぬ励ましと声とともにその後も多くの「芳志をいただきました。みなさまのご理解とご好意に対して心より厚く御礼申し上げますと同時に、ご協力いただいた方々の芳名を掲載させていただきます。事業活動の一層の充実をはかるべく、今後ともどうぞよろしくお願い致します。芳名掲載につきましては、二月二十八日までの到着分とさせていただきます。

館友

岐阜県 浅野 伸一様
五万円

夢の会 保護者の会

文学部神道学科 江沢 滋剛様
三万円

文学部国文学科 和田 政清様
三万円

文学部国史学科

三万円 加藤 久幸様

教育学部教育学科

三万円 嶋津 秀周様

博士前期課程神道学専攻

三万円 田井 宏栄様

企業

三重県 三集グリーン様
十五万円（五万円増額）

創立130周年・再興50周年記念事業寄付金 進捗状況

平成23年 2 月28日現在

区 分	申込件数	申込金額(円)	納入金額(円)
宗 教 界	634	776,897,000	765,847,000
館 友	725	79,394,000	76,679,000
篤 志 家	46	31,855,000	31,735,000
夢 の 会	2,076	94,131,000	94,131,000
企 業	104	62,335,000	60,995,000
本法人関係	256	58,722,000	58,472,000
合 計	3,841	1,103,334,000	1,087,859,000

個人情報保護に関する法律の施行に伴い、ご芳名・金額等の掲載を希望されない方々につきましては、別記とさせていただきます。■夢の会／3名

日本文化への関心高く

さて、ケント大学は本学の夏季短期英語研修の候補地として大変興味深い大学であった。その理由は、すでに日本との交流を重ね、日本語・日本文化への関心が非常に高い大学という点にある。CEWLには諸外国からの留学生に開かれた種々

のコースがある。大学本科入学前プログラム、専門と英語の両方を履修して学士・修士を取得するプログラム、一般対象の英語力育成プログラムなどに加えて、日本人学生に特化した年間交流プログラムの「JYA・イ

ングリッシュ・プラス」、ボランティアをしながら英語を学ぶ「イングリッシュ・ウィズ・ボランティア」、そして言うまでもなく、日本の大学からの特別英語研修の受け入れなど、さまざまなメニューが提供されている。特に今夏、七月上旬と中旬の二回、「ディスカバー・ジャパン」という日本文化紹介にターゲットを絞

った特別開講コースが企画されており、この大学がいかにアジアに開かれた大学・日本だけでなく、中国、東南アジアなどの言語・文化企画もある一であるかがわかる。国際交流、なかでも、学生の国際言語習得の意義は、諸外国の言語や文化を通して自己（自国の文化）をより深く知るこ

とにある。その交流は、また、つねに双方向的なベクトルを持たなければならぬ。この伊勢のキャンパスに諸外国から学生や研究者を招き、私たちの文化の中で、それ

が依って立つ地域のこと（ローカリズム）、世界のこと（インターナショナルイズム）、地球のこと（グローバルイズム）を学ぶ

グスチヌス教会遺跡）や世界最古の現役学校キングス・スクール、中世のパブなどが点在する学生町。カンタベリーはどこか伊勢の地に似ている。余談であるが、カンタベリーは聖トマス・ベケットの殉教に因んだ「カン

タベリー詣で」の巡礼地で、英国中世文学の巨匠ジェフリー・チョーサー著『カンタベリー物語』は、ロンドンからカンタベリー大聖堂に詣でる巡礼者たちが語る逸話をつないだ物語集・説話文学である。



上／芝生の上でランチタイム中の学生たち。眼下には大聖堂を臨む。
下／学内には近代的なシアターも。



先輩、お元気ですか

OB・OG訪問



磯上 知里氏

国文学科 第三十六期（平成十三年三月）卒
◆卒業後に学芸員となり、現在に至る。

春ここに生るる朝の日をうけて
山河草木みな光あり
万葉の道の一道生のきはみ
踏みもてゆかむこころつし
佐佐木信綱は歌人・国文学者で、昭和十二年に第一回文化勲章を受章し、唱歌「夏は来ぬ」の作詞者として知られています。この二首は私の好きな信綱短歌で、信綱の人柄や万葉者としての信条がよくあらわれています。

私は在学中、将来の進路において選択肢が多い方がよいと思い、国文学科の講義をはじめ資格取得の講義等、積極的に受講しました。そのことが、現在の仕事と私を繋ぐ結果となったのです。

また、在学中は信綱について全く知らず、学芸員になってから勉強しましたが、理想と現実の間で挫折そうになり、何度か国文学科研究室に足を運びました。学生の時と変わらず、先生方は温かく迎え入れてくださり、広い学識でもって私を導いてくださいました。

先生方の温かい励ましと熱心な指導が無ければ、今日まで学芸員を続けることはできなかったと思います。恵まれた環境の皇學館大学で、素晴らしい先生方と巡り会えたことに感謝します。

信綱が提唱した「ひろくふかくおのがじしに」のよびに、私なりの道を進んでいきたいと思っています。

5月 イベント情報(4~5月)

- 14日

月例文化講座
世界的気候変動の中の日本史
◆深草正博 教育学部長(教授)
- 21日

神道博物館教養講座
出雲の神在祭 ~奉仕する者の立場から~
◆万九千社立虫神社禰宜・島根県神社庁主事 錦田剛志 氏

英国夏季短期留学 参加者募集中!

Speaking・Listening・Writing・Vocabulary・Pronunciation 等、個々のレベルに合った本場の英語教育を少人数クラスで受講します。また、大学寮での生活や小旅行を通じ、様々な国の人々と接しながら、異文化交流を行います。 ※7面に関連記事

平成23年
【実施期間】 8月6日~31日(26日間) 予定
【研修先】 ケント大学(英国・カンタベリー)
【参加費用】 約47万円
【申込期限】 平成23年 5月16日(月)まで

お申込・お問合せは 総務部 まで ☎0596-22-6308
詳しくは大学 HPもしくは、学内掲示板をご覧ください。

イベントの時間・申込方法等のお問合せは企画部まで
企画部 ☎0596-22-6496 kikaku@kogakkan-u.ac.jp

◆三月十一日に東日本を襲った未曾有の大震災は、想像を絶する被害をもたらしました。この度の震災で大きな被害に遭った方々の心へお祈り申し上げますと共に、被災された皆様に対し、お見舞い申し上げます。 ◆今号まで学園報は総務課が企画編集してきましたが、平成二十三年度からは広報全般業務を企画部が担当します。これまで学園広報は大きな法人広報(総務課)と入試広報(入学試験課)に区分されてきましたが、近年の情勢変化、また様々なニーズに対応するために、主管部署が企画部に一元化されます。専属のスタッフが配置される予定で、正確性・迅速性・創造性を踏まえた戦略的な広報活動が期待されます。 【総務課】



「笑顔が大事」と松本さん。天気が毎日良くなることも。

み上げるようにした。すると、自然に優しい口調で話せるようになったという。また、最初は原稿を一字一句覚えていたが、セリフのように聞けるため、要点のみ頭に入れるようになった。自分の言葉でつなぐため、周囲からも「スムーズに聞こえる」と高評価を得たそう。ほか、方言が出ないようになり、当日の気候に合った服装を考えるなど視聴者に与える印象にも気を配る。

これらの経験は現在取り組んでいる就職活動においても生かされている。金融業界への就職をめざしているという松本さん。面接の際、キャスターの仕事を通じて磨いた伝える技術をアピールできたという。自分のウィークポイントを克服するよい機会になったとも言い、社会へ出る前に貴重な体験ができたよかったですと話していた。



昨秋の2部リーグ優勝を決めた直後のリラックスした様子。昇格の裏には徹底したイメージトレーニングがあった。

女子ハンドボール部

東海地区一部リーグに昇格
男子も四部で優勝・三部へ昇格

大学女子ハンドボール部が昨年の秋季東海二部リーグで優勝。みごと一部に昇格した。創部から一年半、試合に出場するようになったわが半年での快挙だ。

同部を立ち上げたひとりで、副キャプテンを務めた平賀早紀さん(教育学科三年)は「昨年の春季リーグで全敗して、ものすごく悔しい思いをしたことが原動力になった」と振り返る。新キャプテンとなった辻仁美さん(同二年)も「人数が揃い初めて試合に出られた。それに満足して、内容や勝つことに頭がまわらなかった」と分析する。

悔しさをバネにチームがまず取り組んだのは意識改革だ。「ひとり一人が課題を持って練習に取り組むようになった」と平賀さん。彼女自身、プレーに自信がなかったことを反省し、「シュートする時も決まるかな、ではなく、決める」と心を強く持つようになったと語る。「男子部員が練習に付き合ってくれたことも大きい」とは辻さんだ。パワーやスピードに優る男子を相手にすることで、より充実した内容になり、力がついたという。さら

学生キャスター、活躍中!

松本奈々子さん

(コミュニケーション学科三年)

コミュニケーション学科三年の松本奈々子さんが伊勢市のケーブルテレビ「アイティービー(NTV)」でお天気キャスターを務め、人気を集めている。本来は恥ずかしがり屋という松本さん。昨年六月、アルバイトを探そうと見た掲示板で学生キャスターの募集を知り、人に情報を伝える技術を身に付けたいと応募した。

出演しているのは水曜日、十九時からの「お天気情報」コーナー(二十時~二十三時の毎時に再放送。時間にして三分ほどの登場だが、予想以上に難しかったようだ。「原稿を読むだけなので、すぐできるかな」と最初は甘く考えていました。でも、いざ収録ビデオを確認すると棒読みで表情も硬く、最初は何回も撮り直すことになってしまっていた。



スタジオにて。右はiTVメインキャスターの荒木幸太さん。

に、試合前には対戦するチームの特徴についてビデオを見ながら研究し、対策を練るなど徹底。貪欲に〈勝利〉にこだわった。そうしてつかんだ一部

リーグの座。しかし、二人は「トップチームのレベルとは雲泥の差。気持ちを切り替え、チャレンジャー精神でぶつかろう」と意を固める。今後について、新キャプテンとしてチームを率いる辻さんは「中学、高校と副キャプテンを務め

たが、キャプテンになるのは初めて。リーダーシップを発揮して、何でも言い合えるチームにしたい」と抱負を語った。引退を迎える平賀さんは「みんなのおかげで、人との関わり方や気持ちを受け容れる大切さを学んだ。教員をめざすにあたり、活かしていきたい」と話していた。

平成23年度 月例文化講座

年間テーマ

子どもと文化

5/14(土) 教育学部長(教授) 深草正博
世界的気候変動の中の日本史

これまでの歴史的考察の中で、気候変動というファクターは「環境決定論」というレッテルを貼られて、排斥されてきました。が、これ抜きでは歴史の正しい把握は困難です。今回は、世界の気候変動とからめて日本史を見直してみましょう。

6/11(土) 教育学部准教授 有門秀記
よりよく子どもを見つめるために

①トラブルがあった…子どもかわいさに、一方的に相手が悪いと思い込んでいませんか。
②勉強ができない…子どもかわいさに、一方的に知識を詰め込んでいませんか。このようなときどうすればいいのでしょうか。これらの点について考えていきます。

7/9(土) 教育学部教授 田口鉄久
子どもの育ちと遊び

子どもは遊びや生活を通して人生に必要な知恵と力を獲得します。ごっこ遊び、ルールのある遊び、伝統的な遊びに取り組む子どもの姿を通して、育ちを見つめ、私たち大人はどのような支援をするのが望ましいか考えます。

9/10(土) 教育学部教授 錦かよ子
西洋音楽黎明期における子どもの歌

明治初期、文明開化と共にわらべ歌や民謡とはまったく異質な西洋音楽を、情操教育として国家レベルで子どもたちに教えることになったが、その困難さは想像するに難くありません。西洋音楽黎明期における子どもの歌は、日本人の手でどのようにして作られ、教えられたのでしょうか。

10/8(土) 教育学部講師 野々垣明子
子ども観の変遷

大人は子どもの成長を願い、何が子どものためになるのかを考え、様々な配慮します。こうした子どもに対するふるまい方は、歴史的にみれば近代以降に広まった、比較的新しい態度です。私たちが当たり前だと思っている子どもに対する見方、考え方が、歴史の中でどのように作られてきたのかを、文献や絵画をもとに解説します。

11/12(土) 教育学部准教授 加藤茂外次
版画のはなし：ウォーターレス リトグラフを中心に

伝統的な版画には木版、銅版、リトグラフ、シルクスクリーンなどがあります。その様々な方法を知った上で、1990年代に考案された新しいリトグラフの技法について、その原理や方法を作例の写真や映像を使って解説します。

12/10(土) 教育学部教授 中村哲夫
幻の東京オリンピックについて

本講座で取り上げるのは、昭和15年に東京で開催予定だった第12回オリンピック大会です。この大会は、昭和11年のベルリン大会開会式前日に決定され、以後、準備が進められましたが、しかし昭和13年7月、政府は開催権の返上勧告を出し、大会は幻に終わります。この経緯から、当時の国際スポーツをめぐる諸相について検討していきます。

聴講料無料

時間●各日いずれも 午後 2 時より

場所●皇 學 館 大 学
4 号館 431号室

お問合せ先
皇學館大学 ☎0596-22-0201